

瀬野精一郎先生 年譜・主要著作目録



年 譜

- | | | |
|-------------|----|-------------------------|
| 一九三一（昭和六）年 | 七月 | 二十日、長崎県佐世保市花園町二六番地で生まれる |
| 一九四九（昭和二四）年 | 三月 | 長崎県立佐世保中学校五年卒業 |
| 一九五〇（昭和二五）年 | 三月 | 長崎県立佐世保北高等学校卒業 |
| | 四月 | 九州大学教養部文科入学 |
| 一九五二（昭和二七）年 | 四月 | 九州大学文学部国史学科進学 |
| 一九五四（昭和二九）年 | 三月 | 九州大学文学部国史学科卒業 |
| | 四月 | 九州大学大学院文学研究科修士課程国史学専攻入学 |
| 一九五七（昭和三二）年 | 三月 | 九州大学大学院文学研究科修士課程国史学専攻修了 |

	四月	九州大学文学部国史研究室助手
一九六〇（昭和三五）年	九月	東京大学史料編纂所教務職員
一九六二（昭和三七）年	四月	東京大学史料編纂所助手
一九七六（昭和五一）年	八月	東京大学史料編纂所助教授
一九七七（昭和五二）年	四月	早稲田大学文学部助教授
	七月	日本歴史学会理事
一九七八（昭和五三）年	七月	文学博士（早稲田大学）
一九八二（昭和五七）年	四月	早稲田大学文学部教授
一九八三（昭和五八）年	七月	日本歴史学会理事退任
一九八六（昭和六一）年	七月	文部省文化財保護審議会専門委員
一九八七（昭和六二）年	一〇月	日本古文書学会理事
一九九一（平成三）年	七月	日本歴史学会理事
	十一月	『角川日本地名大辞典』の編纂により毎日出版文化特別賞受賞
一九九六（平成八）年	一〇月	日本古文書学会理事退任
一九九七（平成九）年	七月	日本歴史学会理事退任
一九九八（平成一〇）年	一〇月	文部省文化財保護審議会専門員退任
	一〇月	早稲田大学史学会会長
二〇〇一（平成一三）年	一〇月	早稲田大学史学会会長退任
二〇〇二（平成一四）年	三月	早稲田大学文学部教授定年退職

七月 早稲田大学名誉教授

主要著作目録

編著書

『松浦党諸家文書』(編)	一九五八年	八月	九州史料刊行会
『小鹿島文書・大川文書・斑島文書』(編)	一九六一年	八月	九州史料刊行会
『長崎県史』史料編第一(共編)	一九六三年	三月	長崎県
『肥前国彼杵荘・伊佐早荘史料』(編)	一九六四年	二月	九州莊園史料刊行会
『肥前国長嶋荘史料』(編)	一九六五年	五月	九州莊園史料刊行会
『筑後国三潯荘史料』(編)	一九六六年	五月	九州莊園史料刊行会
『鎌倉幕府裁許状集』(上) 関東裁許状篇(編)	一九七〇年	九月	吉川弘文館
『鎌倉幕府裁許状集』(下) 六波羅・鎮西裁許状篇(編)	一九七〇年	二月	吉川弘文館
『長崎県の歴史』	一九七二年	四月	山川出版社
『九州地方中世編年文書目録』鎌倉時代篇(編)	一九七四年	一〇月	吉川弘文館
『九州地方中世編年文書目録』南北朝時代篇(編)	一九七四年	一〇月	吉川弘文館
『鎮西御家人の研究』	一九七五年	二月	吉川弘文館
『青方文書』(一)(編)	一九七五年	六月	続群書類従完成会
『肥前国神崎荘史料』(編)	一九七五年	一〇月	吉川弘文館

『青方文書』(二)(編)	一九七六年	八月	続群書類従完成会
『九州の風土と歴史』(共著)	一九七七年	八月	山川出版社
『南北朝遺文』九州編第一卷(編)	一九八〇年	一月	東京堂出版
『長崎県史』古代・中世編(共著)	一九八〇年	三月	長崎県
『演習古文書選』莊園編上(共編)	一九八〇年	九月	吉川弘文館
『南北朝遺文』第二卷(編)	一九八一年	四月	東京堂出版
『分裂と動乱の世紀』(責任編集)	一九八一年	七月	旺文社
『演習古文書選』莊園編下(共編)	一九八一年	八月	吉川弘文館
『概説古文書学』(共著)	一九八三年	五月	吉川弘文館
『南北朝遺文』第三卷(編)	一九八三年	一〇月	東京堂出版
『歴史の陥穽』	一九八五年	五月	吉川弘文館
『南北朝遺文』第四卷(編)	一九八五年	二月	東京堂出版
『備後国大田莊史料』(一)(編)	一九八六年	一月	吉川弘文館
『早稲田大学蔵資料影印叢書古文書集』(二)(編)	一九八六年	六月	早稲田大学出版会
『日本古文書学論集』(五) 中世 (一)(共編)	一九八六年	二月	吉川弘文館
『日本古文書学論集』(六) 中世 (二)(共編)	一九八七年	六月	吉川弘文館
『角川日本地名大辞典』長崎県(共編)	一九八七年	六月	角川書店
『増補鎌倉幕府裁許状集』(上) 関東裁許状篇(編)	一九八七年	一月	吉川弘文館
『増補鎌倉幕府裁許状集』(下) 六波羅・鎮西裁許状篇(編)	一九八七年	一月	吉川弘文館

- 『家の名・族の名・人の名』（共著）
『南北朝遺文』第五卷（編）
『南北朝遺文』第六卷（編）
『南北朝遺文』第七卷（編）
『宗像大社文書』第一卷（共編）
『鎌倉遺文無年号文書目録』（編）
『ワイド日本史』B（共著）
『新日本史』B（共著）
『鎌倉遺文補遺無年号文書目録』（編）
『松浦党関係史料集』一（編）
『歴史断想』
『夏炉冬扇』
『松浦党関係史料集』二（編）
『長崎県の歴史』（共著）
『新日本史』A（共著）
『日本史研究者辞典』（共編）
『宗像大社文書』第二卷（共編）
『日本史総合年表』（共編）
『無常迅速』

一九八八年	九月	三省堂
一九八八年	九月	東京堂出版
一九九〇年	一〇月	東京堂出版
一九九二年	九月	東京堂出版
一九九二年	一二月	宗像大社復興期成会
一九九三年	九月	東京堂出版
一九九四年	三月	自由書房
一九九四年	三月	自由書房
一九九六年	三月	東京堂出版
一九九六年	八月	続群書類従完成会
一九九七年	三月	東京堂出版
一九九七年	三月	自費出版
一九九八年	九月	続群書類従完成会
一九九八年	九月	山川出版社
一九九八年	一〇月	桐原書店
一九九九年	五月	吉川弘文館
一九九九年	一月	宗像大社復興期成会
二〇〇一年	五月	吉川弘文館
二〇〇二年	三月	自費出版

論文

肥前国御家人白魚九郎入道行覚について

惣領制の解体と鎌倉幕府

肥前国における鎌倉御家人

鎌倉幕府滅亡の歴史的前提―鎮西裁許状の分析―

松浦党の一揆契諾について―未組織軍事力の組織化工作―

鎮西御家人と元寇恩賞地

鎮西奉行考

鎌倉御家人の基準

鎮西における東国御家人 (上)

鎮西における東国御家人 (下)

足利直冬

中原親能と鎮西との関係

鎌倉幕府裁許状の分析

偽文書

鎮西における六波羅探題の権限

鎌倉時代における松浦党

鎌倉幕府の鎮西統治に対する抵抗と挫折

得宗専制・徳政令

一九五六年	七月	『九州史学』創刊号
一九五七年	一〇月	『九州史学』六号
一九五八年	三月	『日本歴史』一一七号
一九五八年	三月	『史淵』七五輯
一九五八年	三月	『九州史学』一〇号
一九六〇年	一月	『九州史学』一四号
一九六一年	三月	『九州文化史創立二十五周年記念論文集』
一九六一年	一月	『金沢文庫研究』七卷一〇・一一号
一九六二年	五月	『日本歴史』一六七号
一九六二年	六月	『日本歴史』一六八号
一九六五年	七月	『室町幕府―その実力者達―』(人物往来社)
一九六七年	四月	『九州史学』三七・三八・三九号
一九六八年	一月	『史学雑誌』九七編一号
一九六八年	四月	『地方史研究の方法』(新生社)
一九六八年	四月	『九州史研究』(御茶の水書房)
一九六八年	九月	『日本歴史』二四四号
一九六九年	六月	『荘園制と武家社会』(吉川弘文館)
一九六九年	九月	『日本と世界の歴史』十三世紀(学習研究社)

地頭代より地頭への書状	一九六九年 九月	『日本歴史』二七八号
松浦党の基盤と変質―肥前国宇野御厨―	一九七三年 三月	『莊園の世界』 (東京大学出版会)
鎌倉時代の裁判はどう行われていたか	一九七三年 七月	『日本史研究の視点』 中世(日本書籍)
鎌倉武士の生活はどうであったか	一九七三年 七月	『日本史研究の視点』 中世(日本書籍)
元寇後御家人制が急速に崩れたのはなぜか	一九七三年 七月	『日本史研究の視点』 中世(日本書籍)
萬代亀四郎氏所蔵手鑑について	一九七四年 三月	『東京大学史料編纂所 所報』八号
九州地方における南北朝時代文書の数量的分析	一九七四年 六月	『日本歴史』三一三三号
元寇恩賞地に関する相田理論の誤謬	一九七五年 一月	『日本歴史』三二一〇号
京都大番役勤仕に関する一考察	一九七五年 三月	『東京大学史料編纂所 所報』九号
鎌倉時代における渡唐船の遭難にみる得宗家貿易独占の一形態	一九七五年 七月	『神奈川県史研究』二八号
海事史料としての青方文書	一九七五年一〇月	『海事史研究』二五号
鎌倉政権成立期の九州	一九七六年 七月	『歴史公論』七号
歴史概念としての「党的武士団」	一九七七年 五月	『西南地域史研究』一号
蒙古征伐計画の実態	一九七八年 二月	『歴史と人物』二号
東国御家人の領主制展開の一形態―上総国御家人深堀氏の場合―	一九七八年 三月	『史観』九八冊
鎮西における松浦党の変質過程―平安時代における松浦党―	一九七八年 五月	『民衆史研究』一六号
松浦党関係史料補遺	一九七八年一二月	『西南地域史研究』二号
鎮西探題と北条氏	一九七九年 三月	『金沢文庫研究』二五八号
中世武士の家意識	一九八〇年 一月	『歴史公論』五〇号

モンゴル合戦恩賞対象地としての肥前国神崎荘

鎌倉幕府による鎮西特殊立法について

松浦党研究の諸論点

鎌倉時代における改嫁と再婚

九州少弐・菊池氏宿命の対決

筑後国三潞庄の成立と終焉

日本における「氏」の残滓―歴史学の眼から―

青方文書正和四年六月二日鎮西探題裁許状案の復原

鎌倉期商業資本家的代官―備後国大田荘と和泉法眼渕信―

肥前国における安楽寺領

九州における建武三年の歴史的意義

『南北朝遺文―九州編―』の刊行と問題点

『鎌倉遺文』無年号文書の重複について

『鎌倉遺文』研究の課題

The Kikuchi and Their Enemies in the 1330s

『鎌倉遺文』研究の課題―特に収録重複文書について―

刊行史料集整理の必要性―『鎌倉遺文』所収文書を中心に―

鎌倉時代における「謀書」の罪科

『鎌倉遺文』所収重複文書の確定と削除

一九八〇年 三月

一九八一年 七月

一九八二年 六月

一九八二年一〇月

一九八三年 八月

一九八四年 九月

一九八八年 九月

一九九〇年 一月

一九九〇年 一月

一九九一年 三月

一九九二年 三月

一九九二年一〇月

一九九四年 三月

一九九七年 三月

一九九七年 三月

一九九八年 四月

一九九九年 四月

二〇〇二年 三月

二〇〇二年 四月

『早稲田大学大学院文学研究科紀要』二五輯

『御家人制の研究』(吉川弘文館)

『松浦党研究』四号

『史観』一〇七冊

『歴史と人物』

『莊園制と中世社会』(東京堂出版)

『家の名・族の名・人の名』(三省堂)

『日本歴史』五〇〇号

『人物でたどる日本 莊園史』(東京堂出版)

『神道史大系月報』九八

『史観』一一六冊

『古文書研究』三六号

『早稲田大学大学院文学研究科紀要』三九輯

『早稲田大学大学院文学研究科紀要』四二輯

『The Origins of Medieval World』

『鎌倉遺文研究』創刊号

『鎌倉時代の政治と経済』(東京堂出版)

『早稲田大学大学院文学研究科紀要』四七輯

『鎌倉遺文研究』九号

その他

- (書評) 佐賀県史料集成四卷 (深堀家文書・深江文書)
 (編) 筑前国古文書編年目録
 (書評) 川添昭二編『今川了俊関係編年文書』(上)
 (回顧と展望) 鎌倉南北朝時代社会経済政治
 (書評) 竹内理三編『稿本国別荘園分布図』
 (論) 足利直冬と年号
 (書評) 川添昭二編『鎮西探題史料集』
 (書評) 石井良助著『体系日本史叢書法制史』
 (論) 歴史教科書の厚さ
 (論) 偽文書と謀書
 (書評) 羽下徳彦著『惣領制』
 (論) 改元の伝播
 (論) 偽文書
 (書評) 黒田俊雄著『体系日本歴史2 荘園制社会』
 (書評) 古賀十二郎著『丸山遊女と唐紅毛人』前・後編
 (論) 「神風史観」の起源
 (書評) 出雲隆編『鎌倉武家事典』
 (論) 無過失責任主義と歴史学
- | | |
|----------|-----------------|
| 一九五九年 九月 | 『日本歴史』一三五号 |
| 一九六〇年 七月 | 『九州史学』一五号 |
| 一九六〇年 二月 | 『日本歴史』一五〇号 |
| 一九六二年 五月 | 『史学雑誌』七二編五号 |
| 一九六三年 一月 | 『日本歴史』一七六号 |
| 一九六五年 六月 | 『日本歴史』二〇五号 |
| 一九六五年 七月 | 『日本歴史』二〇六号 |
| 一九六五年 一月 | 『日本歴史』二一〇号 |
| 一九六五年 一月 | 『日本歴史』二一〇号 |
| 一九六五年 一月 | 『日本歴史』二一〇号 |
| 一九六七年 二月 | 『日本歴史』二二一〇号 |
| 一九六八年 三月 | 『日本歴史』二三八号 |
| 一九六八年 四月 | 『日本歴史』二三五号 |
| 一九六八年 八月 | 『地方史研究の方法』(新生社) |
| 一九七〇年 七月 | 『日本歴史』二四三号 |
| 一九七二年 一月 | 『日本歴史』二六六号 |
| 一九七三年 三月 | 『日本歴史』二九四号 |
| 一九七三年 五月 | 『日本歴史』二九八号 |
| 一九七三年 五月 | 『日本歴史』三〇〇号 |

- | | | |
|--|----------|--------------|
| (書評) 戦国文書研究会編『戦国文書聚影―後北条氏篇―』 | 一九七三年一月 | 『日本歴史』三〇六号 |
| (書評) 永原慶二・貫達人・安田元久編『中世史ハンドブック』 | 一九七四年九月 | 『日本歴史』三一六号 |
| (書評) 河合正治著『中世武家社会の研究』 | 一九七四年一月 | 『日本歴史』三一八号 |
| (論) 鎌倉時代推定文書数 | 一九七五年四月 | 『鎌倉遺文』八卷附録 |
| (書評) 秀村選三他編『博多津要録』第一卷 | 一九七五年八月 | 『史学雑誌』八四編八号 |
| (論) 花押影―青方文書の校訂に寄せて― | 一九七五年一月 | 『古文書研究』九号 |
| (書評) 竹内理三編『荘園分布図』上巻 | 一九七五年一月 | 『日本歴史』三三〇号 |
| (論) 大友宗麟と老眼 | 一九七六年一月 | 『日本歴史』三三二号 |
| (書評) 日本塩業大系編集委員会編『日本塩業大系史料集古代・中世 (一)』 | 一九七六年一月 | 『日本歴史』三三二号 |
| (解説) 藤田明著『征西將軍宮』 | 一九七六年三月 | 復刻版『征西將軍宮』 |
| (書評) 伊木寿一著『増訂日本古文書学』 | 一九七六年八月 | 『歴史公論』八号 |
| (書評) 長沼賢海著『日本海事史研究』 | 一九七六年一〇月 | 『史学雑誌』八五編一〇号 |
| (論) 原本の持つ意味 | 一九七八年九月 | 『日本古文書学講座』二卷 |
| (書評) 仲村研著『荘園支配構造の研究』 | 一九七八年一〇月 | 『週間読書人』 |
| (回顧と展望) 一九七九年の歴史学界中世 | 一九八〇年五月 | 『史学雑誌』八九編五号 |
| (対談) 国史学界の今昔
長沼賢海氏に聞く「明治・大正・昭和長沼賢海」 | 一九八一年九月 | 『日本歴史』四〇〇号 |
| (論) 地域史を書くことの意義 | 一九八二年一月 | 『郷土史展望』創刊号 |
| (辞典項目)「国人一揆契諾状一覽」 | 一九八四年二月 | 『日本史総覧Ⅲ中世Ⅱ』 |
| (随筆)「シギョウ状」か「セギョウ状」か | 一九八四年四月 | 『日本歴史』四三一号 |

- (書評) 川添昭二著『九州中世史の研究』 一九八五年 三月 『法制史研究』 三四
- (書評) 山口隼正著『中世九州の政治社会構造』 一九八五年 三月 『法制史研究』 三四
- (隨筆) 二つの時代に生きた人々 一九八六年 一月 『伝記の魅力』 (吉川弘文館)
- (隨筆) 詔勅と私 一九八七年 三月 『日本歴史』 四六六号
- (隨筆) 大隈重信母方の系譜 一九八八年 二月 『新鐘』 三九号
- (隨筆) 家母長制の可能性 一九八九年 一月 『日本歴史』 四八八号
- (隨筆) 読みの定着 一九八九年 九月 『古文書研究』 三十一号
- (書評) 谷口昭「転換期の太政官行政―中世国家像によせて―」 一九九〇年 三月 『法制史研究』 三九
- (隨筆) 黒板先生と三枚の色紙 一九九〇年 七月 『日本歴史』 五〇六号
- (隨筆) 卒業論文の書き方の変遷 一九九一年 一月 『日本歴史』 五一二号
- (対談) 『九州史学』一〇〇号記念座談会 一九九一年 七月 『九州史学』 一〇〇号
- (対談) 国史学界の今昔 玉村竹二氏に聞く「禅宗史研究六十年」 一九九二年 三月・四月 『日本歴史』 五二六・五二七号
- (回顧と展望) 一九九一年の歴史学界中世 一九九二年 五月 『史学雑誌』 一〇一編五号
- (対談) 国史学界の今昔 竹内理三氏に聞く「私の古文書蒐集と刊行」 一九九二年 一月 『日本歴史』 五三四号
- (研究余滴) 五十三年前の偽文書 一九九五年 一二月 『古文書研究』 四一・四二合併号
- (対談) 国史学界の今昔 村田正志氏に聞く「南北朝時代史の研究と懐旧談」上・下 一九九六年 二月・三月 『日本歴史』 五七二・五七三号
- (対談) 戦後五〇年史料の公開と保存 一九九六年 六月 『日本歴史』 五七七号
- (対談) 国史学界の今昔 田中健夫氏に聞く「戦後の中世対外関係史研究」上・下 一九九七年 三月・四月 『日本歴史』 五八六・五八七号
- (隨筆) 教育の神髄 一九九七年 四月 『はまゆう』 六七号

(随筆)	意識過剰・増長・離婚—— <small>竹内先生の嫌悪されたもの——</small>	一九九七年	八月	『日本歴史』五九一号
(随筆)	アプレ学生考	一九九八年	一月	『日本歴史』五九六号
(随筆)	九州大学における留任運動の裏事情	一九九八年	三月	『竹内理三——人と学問——』 (東京堂出版)
(座談会)	歴代編集長が語る『日本歴史』の歩み	一九九八年	五月	『日本歴史』六〇〇号
(随筆)	年譜の効用と限界	一九九九年	七月	『本郷』二二一号
(解説)	『寺領荘園の研究』	一九九九年	一月	『竹内理三著作集』第三卷
(研究余録)	抹殺博士と復活博士	二〇〇〇年	一月	『日本歴史』六一九号
(鼎談)	「文献史料と歴史学」	二〇〇〇年	五月	『本郷』二七号
(随筆)	夫婦別姓	二〇〇〇年	五月	『はまゆう』七七号
(随筆)	電気自動炊飯器出現による生活の変化	二〇〇〇年	六月	『日本歴史』六二四号
(論)	平戸松浦氏千年の歴史	二〇〇〇年	一〇月	『平戸松浦家名宝展図録』 (朝日新聞社西部企画部)
(論)	蒙古征伐計画の実態	二〇〇〇年	一月	『時宗の決断』(中公文庫)
(随筆)	老いては子に従え	二〇〇一年	一月	『日本歴史』六三二号
(書評)	『日本史事典』	二〇〇一年	九月	『日本歴史』六四〇号
(座談会)	遺跡・史料の問題点	二〇〇二年	一月	『日本歴史』六四四号
(随筆)	教育勅語に書いてないこと	二〇〇二年	二月	『日本歴史』六四五号
(随筆)	「歴史事実」在りと人の言う	二〇〇二年	二月	『歴史書通信』一四〇号
(随筆)	石井さんの当て馬	二〇〇二年	三月	石井先生を偲ぶ会 『であいの風景』